もぎたて通信

令和８年１０月２９日
長崎市立茂木小学校
発行　校長　松尾伸章
ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞｱﾄﾞﾚｽ　www.nagasaki-city.ed.jp/mogi-e/

「〇〇先生、おはようございます！」「〇〇先生、こんにちは！」・・・

今週は、学校中に一段と子供たちの明るい挨拶の声が響き渡っています。代表委員会で決めた取組で、今週は挨拶強化週間だからです。イベント的な取組ですが、やはり挨拶は魔法の言葉です。子供たちが目標をもって、積極的に挨拶を行い、学校全体を盛り上げています。

来週はもう１１月、２学期も後半戦です。さらに「実りの秋」となるよう支援していきます。

11月行事予定

２日（月）　さわやかタイム　安全の日
３日（火）　＜文化の日＞
　※茂木地区ふれあいまつり　10:50　４年合奏「オーラ　リー」斉唱「チャレンジ！」、１・２年ソーラン節
４日（水）　児童集会（小音会出場学級を励ます会）
　３年社会科見学（県警察署、中央消防署）
５日（木）　６年修学旅行（熊本方面）※６日まで
９日（月）　チャレンジ検定（国語）　３年わかな荘お手玉交流会
１０日（火）　縦割り掃除
１１日（水）　４年長崎市小学校音楽会（午前）
１２日（木）　もぎの木タイム　委員会活動
１３日（金）　縦割り掃除
１５日（日）　（家庭の日）
１６日（月）　縦割り活動（６年生による読み聞かせ）
１７日（火）　読書の日　縦割り掃除
１８日（水）　５年野外宿泊学習（日吉自然の家）※２０日まで
２３日（月）　＜勤労感謝の日＞
２４日（火）　縦割り掃除
２５日（水）　もぎトーク　１年親子ブラッシング
２６日（木）　先生たちによる読み語り　代表委員会　クラブ活動
２７日（金）　縦割り掃除
２８日（土）　※茂木イルミネーション準備 9:00～
３０日（月）　チャレンジ検定（算数）

長崎市小学校音楽会

４年生が、１１月１１日（水）にブリックホールで開かれる長崎市小学校音楽会に出場し、合奏「オーラ　リー」と斉唱「チャレンジ！」を発表します。６年生の長崎市小学校体育大会に続き、今度は４年生が茂木小学校の代表として活躍する番です。全校のみんなで応援しています。

４年生は、この日に向けて９月から練習をよく頑張ってきました。リコーダーなど家でも頑張っているのでしょう、出来栄えも日に日にレベルアップしていっているのがよく分かります。

１１月３日（火）の茂木地区ふれあいまつりでもこれまでの練習の成果を披露することになっています。ぜひご覧になっていただき、一緒に応援していただきたいと思います。

読書大すき月間

秋の深まりとともに、朝晩は涼しい風が感じられる季節となりました。子供たちはスポーツや学習、行事の練習など、日々の学校生活に伸び伸びと取り組んでいます。

さて、秋といえば「読書の秋」です。本校でも１０月２７日（火）から１か月間を読書大すき月間として位置づけ、まず初日の朝、全校で読書集会（児童集会）を開きました。読書大すき月間の取組について説明したり、新しい本の紹介をしたり、図書委員会の子供たちが発表をしました。「読書ラリー」の取組、先生方や６年生による読み語り、先生方の「おすすめの一冊」の掲示など、子供たちが進んで本に親しめるような取組を行っています。

読書には、知識や語彙力を増やすだけでなく、子供の心を豊かに育む素晴らしい力があります。（読む力は、未来を拓く力です。）

物語の主人公に気持ちを重ねることで、「相手の気持ちを考える力」や「多様な価値観を受け入れる柔軟さ」が養われます。（想像力と共感力を育みます。）

文章を読み解き、自分で場面を頭の中に描くプロセスは、深い思考力や集中力の土台となります。（思考力と集中力を高めます。）

インターネットで手軽に情報が得られる時代だからこそ、じっくりと一冊の本に向き合い、自分自身で考えを深める時間は、子供たちにとってかけがえのない財産になります。

～ご家庭でも読書の時間を～

学校での取組に加え、１０月２７日（火）に「家読（うちどく）カード」を持ち帰っていると思いますので、ご家庭でもぜひ読書のきっかけを作っていただければ幸いです。

寝る前の 10 分間だけでも構いません。テレビやスマートフォンを消し、親子で静かに本を開く時間を作ってみてはいかがでしょうか。低学年のお子様には「読み聞かせ」を、高学年のお子様には「どんな本を読んでいるの？」と声をかけ、感想を共有し合うのも素敵な時間になります。

本との出会いは、新しい世界への扉を開くことです。この秋、子供たちが一冊でも多くの「心に残る本」と出会えるよう、ご家庭と連携しながら支援していきたいと考えています。

若菜川を眺めて

人は、どのように言葉を獲得していくのか、様々な観点から研究が行われています。その中に、興味深い話がありました。

人は、表情（感情）と音を関連付けて言葉を獲得していくというのです。

初めて赤ちゃんが発する言葉の多くは、赤ちゃんがよく耳にする言葉で、その音を真似て発していると考えられることが多いようですが、実は、その音を発している人の表情を（感情）を全身で捉え、心地よい感情と体感した音を獲得しているというのです。

その証拠として、生き物の中で唯一人間の赤ちゃんだけが、単純化した表情マーク（例えばニコニコマーク）に反応するのだそうです。他の動物は、動きのあるもののみに反応しますが、人の赤ちゃんは、良い感情のマークには安心の表情となり、怒りの感情のマークには不安の表情となります。つまり、言葉を音として獲得しているのではなく、感情を表現するコミュニケーションのツールとして獲得しているのです。

LINE 等の SNS トラブルが昨今増加、低年齢化してきています。連絡調整のような伝達機能としては大変便利なツールですが、そこにはその人の表情がありません。トラブルの原因はそこにあるのかもしれません。

人が言葉の意味を表情（感情）と関連付けて理解しているのであれば、顔を合わせて話すほかに、本意を伝える術はないように思います。